



住民自らが立ち上がり これからの寸又峡を考える 「寸又峡まちづくりの会議」

寸又峡を取り巻く時代の変化

寸又峡温泉は川根本町の重要な観光拠点として、全国にその名を知られる温泉保養地です。この地の3大原則として「ネオンサインはつけない」、「山には立て看板をつけない」、「芸者を置かない」を開湯当初から守り続け、清楚な温泉地として、これまで発展してきました。

しかし、長引く経済不況、観光に対するニーズの変化などにより、入込み客数は減少の一途を辿り、特に宿泊客については、最盛期の半分近くにまで落ち込んでしまっています。

今、求められる「安らぎ」の心

しかし、めまぐるしい時代の変化は、人々のストレスを増長し、癒しや安らぎを求める風潮が高まりを見

せつつあります。温泉が持つ癒し効果が認められてきたということです。

寸又峡温泉自身が変革のとき

寸又峡温泉は、日本一清楚な温泉保養地を目標とし、心安らぐ環境づくりに取り組んできました。そして今年度、3つの専門部会を設置。それぞれの部会において、寸又峡再生計画が検討されつつあります。

「観光」という分野には、流行り廃りがつきものです。観光地間の生存競争も熾烈を極めていきます。

寸又峡では、今、地域の再生・活性化に向け、山積する課題に必死に立ち向かおうとしています。

10月5日に行われた各部会の中継報告会の模様を一部ご紹介します。

検討部会・1班

寸又峡の魅力をアツプさせたい

発表者：波多野勲さん（紅竹食堂経営）



寸又峡の魅力を高めるにはどうしたら良いか、地元で数回の部会を行った結果、次のような課題点が浮かび上がりました。今後は一つずつ、身の回りのことから進めていきたいと考えます。

ボランティアガイド

実際にガイド役として寸又峡を案内できる人が何人いるのか。繁忙期は寸又峡の人はガイドまで手が回らないのが実状です。寸又峡の歴史や暮らしなど説明できる人を育成していければと考えています。

散策コースの弱者対策

夢の吊り橋への散策路（プロムナードコース）について、高齢化が進むこれからの時代、足の弱い方でも楽しめるように交通機能の充実を図る必要があります。

環境保全について

草取り、除草については、地区全体としての認識が必要です。不在地主の土地が荒れてしまっています。笹など、草の生長を抑える方法を試みたいと考えます。

検討部会・2班

人を呼び込むにはどうすべきか

発表者：佐藤重治さん（佐藤商店経営）



「宿泊客」の増加と、四季を通じて人を呼び込むことを大前提として、どんな方法が考えられるか検討しました。問題点として、公共・民間施設とも、老朽化した施設の改修が困難であること。時間もかかるし費用もかかります。今すぐできることは、ソフト面の充実であると思われまます。

もてなしの心を養いたい

宿によってもてなし方に差があると思われまます。接客の仕方が悪い宿があると、寸又峡全体が悪いイメージになってしまいます。自

分のやっていることと、お客の思うことにギャップがないか、もう一度見直す必要があります。従業員教育の必要性を改めて感じまます。

お客の声を聞く必要性

アンケート調査などを行って、お客が求めているものを把握できればと考えまます。また、その情報は地区全体で共有し、地域のレベルアップにつなげていきます。

まずは自分たちがお互いを知る

自分たちの施設を「お互いが知る」ことが必要です。つまり「良さ」を認め合うということです。

検討部会・3班

どのような温泉地を目指すべきか

発表者：大原民三さん（ホテルアルプス取締役支配人）



現代の観光客のニーズは多様であり、すべての要求に対応しきるのは困難と思われまます。

日本一清楚な温泉郷として、今後、寸又峡が目指すべき方向を検

討しました。

寸又峡の経済効果を町全体で認識してもらう必要性がある

寸又峡は川根本町全体の共有物（資源）であるという認識を浸透させたいと考えまます。住民参加のイベントを開催したり、寸又峡広報紙など発行したりして、情報を広く知らせることが必要です。

組合員の適材適所を考える

組合員「一人一役」を合い言葉として、それぞれ得意な分野を担当できる組織づくりを推進していければと考えまます。寸又峡内の壊れた場所、汚れた場所など、発見したら即対応できる「寸又峡すぐやる会（仮称）」などを設置し、必要に応じて地区内で対処できるようにしていけたらと思ひまます。

新緑や紅葉の時期には、あふれんばかりのにぎわいを見せる寸又峡。今後、オフシーズンの入り込み客の確保や、大井川鐵道との連携、日本一の川根茶の活用など、考えられる素材はたくさんあります。しかし一番重要なのは、お客が満足できること。癒され、心安らぐこと。そして住んでいる人こそが、ここは良い地域だと思えること。できるだけ多くの人に「このままではいけない」という意識を広げるための寸又峡まちづくり会議。「日本一の温泉保養地」に向けた地域づくり実践は、今、次のステップに進みます。